

日本学会議提言

「社会的つながりが弱い人への  
支援のあり方について  
－社会福祉学の視点から－」

社会学委員会 社会福祉学分科会

# 社会的つながりが弱い人とは


- ➡ 自らそうした生き方を選択した訳ではないのに、
  - ① 家族・職場・地域における人間関係が希薄になっているため、
  - ② 家族の成員間の関係性があったとしても家族の外部に対しては閉鎖的なため、自ら社会的な相互承認欲求を持ちながらも、その場を十分に持てない人

# 社会的つながりが弱い人が増えている背景

- 家族の変化  
家族を形成しない（できない）人の増加  
ひとり親世帯の増加と不十分な公的支援  
家庭内暴力（DV）の増加
- 職場の変化  
雇用の流動化・非正規化  
学校から職場への移行ができずにひきこもる人の増加
- 地域の変化  
高齢化・過疎化の進展（コミュニティが維持できない）  
都市部における地域関係の希薄化

## 社会的つながりが弱い人が抱える問題

- 社会からの承認欲求をもちながら帰属の場がない状態が続くと孤立感が増し、自己肯定観や自尊感情が低下  
自らの力で社会的つながりを回復する意欲の低下  
→自助努力で解決できない
- 社会的つながりが弱い人の増加は社会問題  
イギリスでは孤独担当相を設置  
日本は家族以外の人との交流がない人は、イギリスの3倍  
→イギリス以上に深刻な社会問題



# 社会的つながりが弱い人への 支援体制の課題

- 援助対象者の属性ごとに縦割りの支援体制  
安定的な家族・職場・地域社会を前提とした類型化  
→社会的つながりが弱い人が対象になりにくい
- 福祉サービスの契約化  
サービス利用でどう生活課題を解決するかは自己責任  
→自ら支援ニーズを表明できない人が不可視化